

2013年度 第3 四半期 連結業績
国内機関投資家・アナリスト向けカンファレンスコール Q&A(要旨)

日 時: 2014年2月14日 16:00~16:50

回答者: ソニーフィナンシャルホールディングス 専務取締役 渡辺 寛敏

ソニー生命 執行役員常務 清宮 裕晶

ソニー損保 執行役員 石井 隆行

ソニー銀行 執行役員 溝口 純生

※内容については、理解し易いよう部分的な加筆・修正およびQA順序の並べ替えをしております。

【Q&A】

Q1:【SFH】

2013年度の連結業績予想を上方修正したが、さらなる今期増配の可能性は？

A1:

2013年度は配当金額を25円の期初予定からすでに30円へ増配を決定しており、今回の上方修正でさらなる増配は予定していない。2014年度以降については具体的なことは決めていないが、中長期的な事業環境や利益見通しに応じ、安定的に配当を増やしていきたいと考えている。

Q2:【SFH】

今回の業績上方修正について、やや保守的となっているのではないかと4Q(3カ月)に特に想定しているマイナス要因はあるのか？

A2:

業績予想修正数値は、2014年1月末日時点の市況動向を勘案している。具体的なオペレーションの中で想定しているマイナス要因は特にないが、2014年3月末までの市況動向により、ソニー生命の変額保険の最低保証に係る責任準備金の繰入負担が利益に影響を与えることにご留意いただきたい。

Q3:【ソニー生命】

第一分野の新契約年換算保険料の3Q(3カ月)での増加要因として、一時払養老保険の増加が影響していると思うが、一時払養老保険が増加した理由と、4Q(3カ月)以降の販売状況は？

A3:

一時払養老保険は、保険料率改定を機に、2013年5月より販売再開した。介護保険や学資保険などの一時払商品の保険料が値上げとなる中で、相対的に魅力度が増したことから、販売が増加したものと推測している。なお、一部の種目(30年満期種目など)の販売停止により、4Q(3カ月)では3Q(3カ月)のような販売増加はないと考えている。なお、今回販売増加した保険期間30年の一時払養老保険の年換算保険料は、一時払保険料を30年で割った数値となる。

Q4:【ソニー生命】

商品特性上、解約リスクも高いのではないかとと思うが、一時払養老保険の大量販売の理由は？

A4:

一時払養老保険は、保険料率改定を機に2013年5月より販売再開した。販売動向を踏まえ、早期解約リスクなどを慎重に考慮し、収益性の観点から、一部種目での販売停止を判断した。

Q5:【ソニー生命】

一時払養老保険と、2014年1月から発売した新しいタイプの学資保険の足元の販売状況は？

A5:

一時払養老保険は、一部の種目(30年満期種目など)の販売停止により、4Q(3カ月)は販売が落ち着いており、2Q(3カ月)くらい水準に戻っている。新しいタイプの学資保険は、発売直後なので正確な評価はできないが、概ね想定通り。2012年度に比べて、2013年12月までは約半分の水準だったが、足元では2012年度に近い水準まで戻ってきている。

Q6:【ソニー生命】

3Q(3カ月)の経常利益の増加ペースが上半期を上回っているが、特殊要因はあるのか？

A6:

市場環境が想定を上回ったことにより、変額保険の最低保証に係る責任準備金の繰入負担が減少した。また、エンマン債やプライベートエクイティファンドからの収入が増加し、利息及び配当金等収入が増加したことも増益の要因。

Q7:【ソニー生命】

順ざや額、標準利率改定の影響、変額保険の最低保証に係る責任準備金繰入を除いた場合、基礎利益は1Q(3カ月)で205億、2Q(3カ月)で169億、3Q(3カ月)で205億となるが、なぜ2Q(3カ月)が少なかったのか？

A7:

2Q(3カ月)において、保険金の支払いが多かったことによる。

Q8:【ソニー生命】

標準利率改定の影響は3Q(9カ月累計)で80億、1Q(3カ月)が55億円で、2Q(3カ月)が5億円、3Q(3カ月)が20億円となる。3Q(3カ月)で影響が大きく出ている理由は？

A8:

一時払養老保険の販売が大幅に増加した影響による。

Q9:【ソニー生命】

2013年12月末のMCEV算出にあたり、9月末比でマーケットの影響はどのくらいあるのか？また、保険前提の変更はあるか？

A9:

金利のフラット化によるマイナス要因と、株価上昇によるプラス要因により、マーケットの影響全体としてはMCEVに大きな影響は出ていない。保険関係の前提条件には、四半期ごとに見直している解約・失効率の変動を織り込んでいる。また、収益性の低い一時払養老保険の販売増加により、新契約マージンが減少している。

(追加Q:保険関係の前提条件における解約・失効率の見直しは、MCEVにプラスに効いているのか？)

若干だがプラスに効いている。

Q10:【ソニー生命】

新契約マージンが低下しているが、2014年3月末は改善するのか？2014年度はどの程度の水準か？

A10:

2013年12月末の金利水準が継続した場合、一時払養老保険の影響を除くと2013年9月末と同じくらいの6%台前半のマージンの確保は可能ではないかと考える。実際の新契約マージンは四半期ごとに金利なども洗い替えて計算しているため、金利水準に影響される。

Q11:【ソニー生命】

金融庁より保険代理店使用人の管理適正化として、委託型募集人の規制強化要請案が出されている。規制が強化されることにより、ソニー生命の業績に与える影響は？

A11:

代理店チャンネルの業績のうち、委託型募集人を多く擁する大型代理店の占める割合は 2 割程度であるため、業績に対する影響は限定的と考えている。

Q12:【ソニー生命】

ソニー生命全体の業績に占める代理店チャンネルの割合は 3 割という認識で良いか？また、代理店チャンネルにおける代理店形態の内訳は？

A12:

代理店チャンネルはソニー生命全体の 25～30% で大きな変化はない。代理店チャンネルの中では、委託型募集人を擁する大型代理店が 2 割、来店型ショップを中心とする代理店が 3～4 割、残りはそれ以外の代理店形態という内訳となっている。

Q13:【ソニー生命】

ライフプランナー数が、前年同期末から 46 名増加しているが、2016 年 3 月末に 4,400 名超という中期経営計画に対する進捗は？

A13:

例年、4Q(3 カ月)に採用が最も増加する傾向がある。足元も順調であることから、中期経営計画に対しては、計画を上回る水準で進捗している。

Q14:【ソニー損保】

新ノンフリート等級制度導入による事故率の低下により、今期は利益が押し上げられているが、新等級制度で契約者行動が合理的な選択をしていくという前提(=少額の保険金支払いの請求が抑制され、翌期の更改保険料が下がるという前提)のもと、来期以降の予算に、この影響をいかに織り込んでいくのか？

A14:

今期は、想定していたよりも事故率が低く、損害率の低下が増益要因となっている。一方、来期以降は事故による等級ダウンにより値上がりするはずの保険料が減少することになる。これによるマイナスの影響は、継続率の影響も合わせると 1 年目が最も大きく、2 年目以降は徐々に小さくなるのが想定される。この影響については、消費税増税への対応も含め、2014 年 4 月より料率改定にて対応を行っている。

Q15:【ソニー銀行】

他の新規参入行に比べて、預金の増加ペースが鈍いように思うが？

A15:

市場金利に対して、相応の金利をご提供するという考え方で、お客さまに金利をご提供させていただいている。市場からかなり離れた高い金利を提供して預金を獲得し、それによって利ざやが縮小するような運用は行っておらず、あくまでも収益性を重視している。

以上